

---

# 死神の囁き・表

FrangBeat

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

死神の囁き・表

### 【Nコード】

N0286Z

### 【作者名】

Frangbeat

### 【あらすじ】

一組のカップルが誕生。

それにより世界の運命が大きく変わろうとしていた。  
変わった世界と、変わらなかつた世界。  
表と裏で違う世界が楽しめます。

く始まりく（前書き）

初心者なので読みづらい箇所があります。ご了承ください。

く始まり

「う、うん……」

「あ、ありがとう……／＼／＼」

この日、一組のカップルが誕生した。

それは物語の幕が今開いたことを意味する。

このカップルが誕生しなければ世界の運命は違ったものになっただろう。

別に二人は友達というわけでもなく、話している姿も見受けられなかった。

二人はそれぞれ別の友達とつるんでいた。

路線が徐々に最悪な方向へ向かっていったのは丁度期末試験を翌々日に控えたその日だった。

「あ、あの……さ、桜川さん……」

この気弱な青年は讓皇牙（ゆずりおうが）。

「はい？あ、皇牙君……」

少し恥ずかしがり屋なところがあるのが桜川結城（さくらがわゆうき）。

「この問題を少し、教えてほしいんだけど……」  
と、皇牙が数学の問題集を結城の前に。

結城は容姿端麗。成績優秀。学校中の注目だった。

一方の皇牙は特に目立つこともなく、学校生活を送ってきた。

「ああ、この問題は……」

と結城はわかりやすく説明した。

「あ、ありがとうございます。」  
「いえ。」

二人の会話はそれで終了。  
・・・かと思つた。

次の日になり・・・

学校に来てみると、結城と皇牙が仲良く話している。  
そんな姿を見ていたクラスの人たちはもちろん吃驚。

昨日のことがきっかけで話すようになったのか。・・・ちっ

話はHRでのクラスに移る。

「今度さ、肝試しやるけど参加するやついるか？」  
クラスのリーダー的な存在がみんなに聞いてきた。

もちろんみんなは「マジ!??」「行く行く!!」「と騒いでいる。  
「じゃあ、これから男女一組でペア組んでもらいます!!!!」  
・どうせ誰も僕とは組んでくれないから行かなくていいや  
・そう思っていた皇牙。  
するじ。

「お、皇牙君・・・あたしと一緒に回りませんか・・・?」

結城が声をかけてくれた。

「あ、はい・・・ぜ、ぜひ・・・」

即答だった。

迷う余地などない。

- 僕と回ってくれるとか、桜川さん優しいな・・・だからみんなに好かれるんだな・・・  
-  
そう思っていた。

- HRが終わり、放課後 -

「桜川さん・・・あの・・・ありがとうございます・・・」

「え？何がですか??」

「肝試し・・・僕なんかと回ってくれて・・・」

「あ、いえ・・・どういたしまして」

「あ、でも・・・あたし・・・優しくなんかないですよ??」

- え？それってさっきの・・・声に出たかな・・・??? -

「誰にでもってわけでもないですし・・・」

・・・しばらくの沈黙。

破ったのは結城だった。

「あ、あの!!あたし・・・実は・・・」

キーンコーンカーンコーン

結城が何かを言いかけたところで下校時刻を知らせるチャイムが鳴った。

「あ・・・チャイム・・・」

「もうこんな時間だったんだ・・・桜川さん・・・何か言いかけました・・・??」

「あ、いえ!!・・・帰りましょう・・・?」

「は、はい・・・」

帰り道。二人は住んでいるところが近かったため、一緒の電車に乗った。

しかし・・・

「・・・」

「・・・」

・・・無言。

どちらも勇気が出せずに結局、沈黙のまま二人は別れた。

結城は一瞬ふつと暗い影を感じた。

同じとき、皇牙も暗い影を感じた。

それは気のせいではなく、その後の二人の人生に影響するものだった。

そんなこと・・・今の二人は知るはずがない。知られては困るのだ。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0286z/>

---

死神の囁き・表

2011年12月1日01時47分発行